

〈研究授業報告〉

令和五年度第七十一回県研究授業を参観して

戸畑工業高校 福元 沙耶香

令和五年十二月六日、「行書の創作」意図に基づいた表現」を単元とし、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマとした県研究授業が福岡県立苅田工業高等学校にて行われました。高校教育課高口指導主事、若松高等学校早川教頭先生、福岡教育大学和田教授をお迎えし、五十三名の参加のもと本当に充実した一日を過ごすことができました。

田中会長からの「研修の大切さ」「学びたい！という気持ちを忘れないこと」「授業の中で芸術を好きにさせる・興味を持たせる・関心を沸かせる」という熱いお言葉に、久しぶりに身の引き締まる思いでした。

今回の研究授業は、文化庁の全国研修会との絡みで準備・計画・実施と計り知れない苦労があったと思います：きめ細かな学習指導案やワークシートの作成、主体的に学習に取り組む態度の見取り方を示したスライドの作成等、苦労を経て出来上がったものだからこそ私たちにもたくさんものを示唆してくれたように思います。

実際の授業は、生徒が十五名。「風」字の行書創作の授業でした。書く時間よりも構想・工夫の見直しや相互鑑賞、意見交換に多くの時間を使い、本当に「よく考え」ながら作品を作っていく姿を見ることができました。「律動」「性情」といった難しい用語を生徒もよく理解し、使っていたので、日頃からの指導力の高さを感ずるとともに、生徒のレベルの高さ

にも感心しました。参観者の人数の方が圧倒的に多く、緊張からなかなか書くことができない生徒も見受けられましたが、多様な作品が生まれていて、表現力の高さにも驚きました。日々の積み重ねがいかに重要か、改めて感じさせられる授業でした。全員が主体的に学習に取り組んでいたように思いましたが、今回の彼らの作品やワークシートの評価がどのようなものになったのか、ものすごく気になります…。その評価の部分の研修もできたらいいなあと個人的には思います。

研究協議の中での石津先生の言葉が印象に残っています。

『細やかな種がほんとうにたくさん蒔かれていた。』

《生徒が『先生の授業、楽しいっす！』と言っていた。これに尽きる。》
午後の研究協議も含めて、本当に多くのことを学ばせてもらいました。自身の授業改善も行い、自分の生徒に還元していきたいと思えます。

最後に、今回の研究授業開催にあたり、快く会場を提供してくださった苅田工業高等学校、福元先生をはじめ部会の関係の先生方に感謝申し上げます。県研究授業の参観報告とします。

